

5.13 景観

5.13.1 調査

1. 調査内容

会場予定地周辺における景観の状況を把握するため、既存資料調査及び現地調査を実施した。調査内容は表 5.13.1 に示すとおりである。

表 5.13.1 調査内容

調査対象項目	調査対象範囲・地点	調査対象期間	調査方法
地域の景観特性	会場予定地周辺地域	適宜	既存文献調査 「大阪市景観計画」(大阪市、令和2年10月変更) 現地調査
眺望の状況	主要眺望地点：7地点	令和2年10月15日 10月20日 10月26日 10月29日 11月4日 11月11日	現地調査 主要な眺望点から会場予定地方向の眺望景観の撮影

2. 調査結果

(1) 既存資料調査

「大阪市景観計画」では、市域全体が景観計画区域に定められている。会場予定地である夢洲は、基本届出区域の中の「臨海景観形成区域」に定められている。

大阪港は、その利便性を向上させるべく、フェリーターミナル・コンテナターミナルや、鉄道・道路・橋梁といった港湾施設や基盤施設にとどまらず、レクリエーション施設や国際交流施設、ニュータウン等、利用を多岐に広げている。会場予定地及びその周辺の臨海部では、入り組んだ海岸線が形成されており、対岸の建物が見渡せる等大阪港ならではの景観が形成されるとともに、ガントリークレーン、大型クルーズ船の入港風景のほか、大阪港に沈む夕陽等、多様な表情を持つ海辺のまちなみが生み出されている。

(2) 現地調査

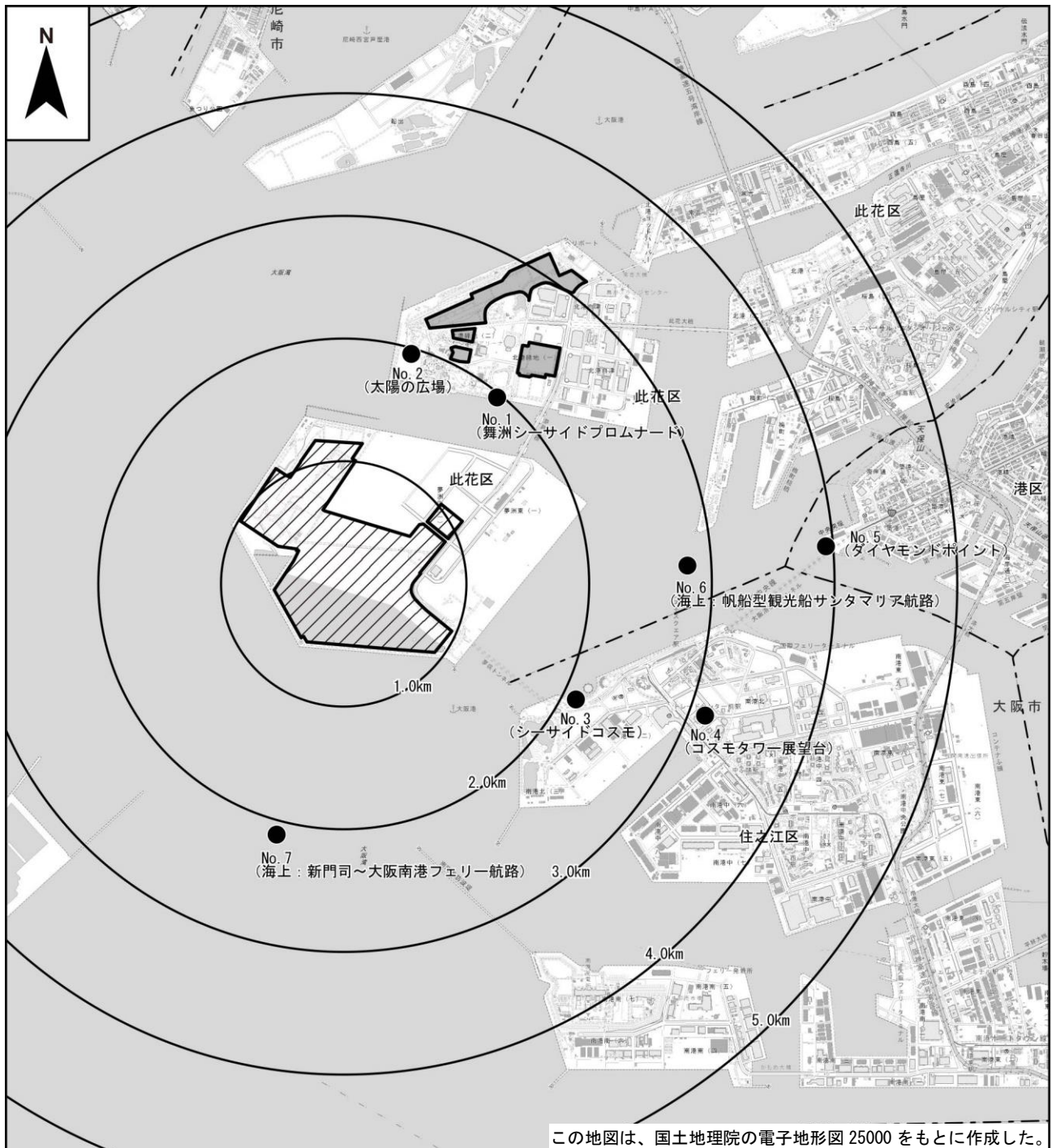
各主要眺望地点からの景観の状況は表 5.13.2 に、主要眺望地点の位置は図 5.13.1 に示すとおりである。

なお、各主要眺望地点からの事業計画地方向の景観写真は図 5.13.2～図 5.13.8 に示すとおりである。

表 5.13.2 主要眺望地点からの景観の状況

区分	図中番号	地点名	方向	距離	状況
中景域	No. 1	シーサイドプロムナード	北東	約 1.9km	会場予定地北側から海を挟んだ対岸からの眺望。会場の北側を眺望することができる。海及びシーサイドプロムナードのウッドデッキが主な景観の構成要素となっている。
	No. 2	太陽の広場	北北東	約 1.9km	会場予定地北側から海を挟んだ対岸からの眺望。会場の北側を眺望することができる。イベント広場及び海沿いの防風林が主な景観の構成要素となっている。
	No. 3	シーサイドコスモ	東南東	約 2.1km	会場予定地東側近傍から海を挟んだ対岸からの眺望。会場の南側を眺望することができる。海が主な景観の構成要素となっている。
	No. 4	コスモタワー展望台	東南東	約 3.1km	会場予定地東側近傍、地上約 252m からの眺望。大阪市臨海地域を広く眺望することができる。西方向の景観では、会場全体の眺望を見下ろすことができる。
	No. 5	ダイヤモンドポイント	東	約 3.9km	会場予定地東側近傍から海を挟んだ対岸からの眺望。会場の南側を眺望することができる。海及び対岸のガントリークレーンが主な景観の構成要素となっている。
	No. 6	観光船航路（帆船型観光船サンタマリア）	東	約 2.8km	会場予定地東側近傍からの眺望。大阪港を周遊する観光クルーズとして不特定多数の人の利用がある。展望デッキからは会場予定地が視認でき、海上の代表的な眺望点と考えられる。会場の南側を眺望することができる。海及び夢洲のガントリークレーンが主な景観の構成要素となっている。
	No. 7	フェリー航路（新門司～大阪南港）	南南西	約 2.1km	会場予定地南側近傍からの眺望。新門司港～大阪南港を航路として、不特定多数の人の利用がある。展望デッキからは会場予定地が視認でき、海上の代表的な眺望点と考えられる。会場の南側を眺望することができる。海が主な景観要素となっている。 なお、本調査地点より近傍においては、夢洲護岸の影響により会場の視認は困難となる。

- 注：1. 「図中番号」は図 5.13.1 の番号に対応する。
 2. 「方向」は会場予定地から見た主要な眺望点の方向を、「距離」は会場予定地中心部から主要な眺望点までの直線距離（最短距離）を示す。
 3. 景観区分は「景観工学」（日本まちづくり協会編、平成 13 年）に基づき、「距離」により以下のとおり区分した。
 近景：約 1km 以内、中景：約 1～5km、遠景：約 5km 以上



凡例



会場予定地



(仮称) 舞洲駐車場予定地



市区界



景観調査地点

No. 1 舞洲シーサイドプロムナード

No. 2 太陽の広場

No. 3 シーサイドコスモ

No. 4 コスモタワー展望台

No. 5 ダイヤモンドポイント

No. 6 海上：帆船型観光船サンタマリア航路

No. 7 海上：新門司～大阪南港フェリー航路

1:50,000



図 5.13.1 景観の現地調査地点の位置

5.13.2 施設の存在に伴う影響の予測・評価

1. 予測内容

施設の存在に伴う影響として、建築物の出現が会場予定地周辺の景観に及ぼす影響について、現地調査結果及び事業計画等を元に予測した。

予測内容は表 5.13.3 に示すとおりである。

主要眺望地点からの眺望の変化の程度については、建築物等の出現による景観の変化を視覚的にとらえるために、現況調査において選定した主要眺望地点 7 地点からの景観について、事業計画に基づき施設存在時のフォトモンタージュを作成し、予測した。

フォトモンタージュについては、大屋根や会場内に設置する施設の高さを考慮し、現在の検討において想定される最大の高さである約 30m として作成した。

表 5.13.3 予測内容

予測項目	予測地点	予測時点	予測方法
建築物等の出現による主要眺望地点からの眺望の変化の程度	主要眺望地点 : 7 地点	施設存在時	フォトモンタージュ法により 将来景観モンタージュを作成 し予測

2. 予測結果

各主要眺望地点からの、現況の景観写真、施設完成後の景観予測図及び景観の変化の程度は図 5.13.2～図 5.13.8 に示すとおりである。

【現 況】



図 5.13.2(1) シーサイドプロムナードからの景観（現況）

【施設完成後】



図 5.13.2(2) シーサイドプロムナードからの景観（施設完成後）

【景観の変化の程度】

区 分	中景域
地点番号	No. 1
地 点 名	シーサイドプロムナード
<p>施設完成後には、空中歩廊となる大屋根（リング）の上部がわずかに視認されるようになる。 夢洲は大阪市内の臨海部に位置する人工島であり、海と空に囲まれたロケーションを活かし、周辺の景観と調和した会場づくりに努める計画としていることから、景観に違和感を与えることはないと予測される。</p>	